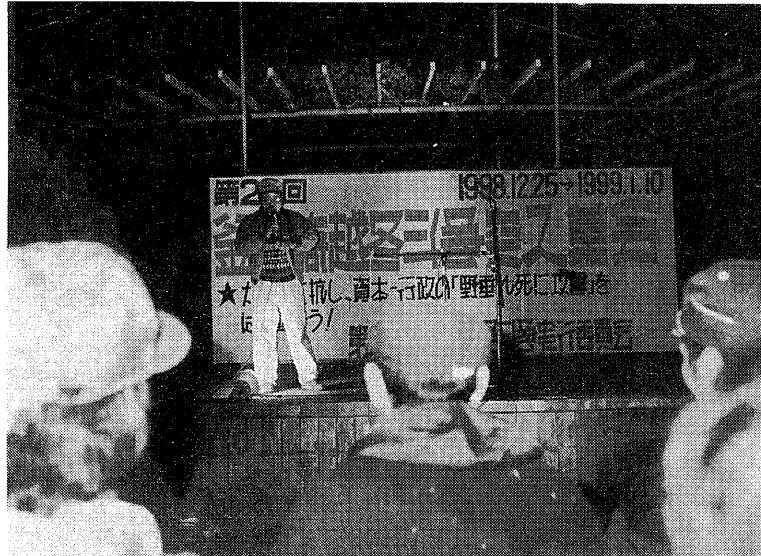


発行 埼玉県新座郵便局私書箱 47号
赤路社 郵便振替：00590-0-20004
(関西)大阪港郵便局私書箱 40号
郵便振替：00940-1-132778
E-mail
<http://www.ga3129@i.bekkoame.or.jp>

1999年を転換の年に



98-99釜ヶ崎越年越冬鬪争

第一は、アメリカ金融独占資本に統いて、七〇年代に西欧金融独占資本が、八〇年代には日本金融独占資本が、多国籍展開をし、世界の帝国主義諸国金融独占資本による市場の相互乗り入れが、国際分業を発展させつつ定着したことによって、他方で世界市場再分割競争が激化し、国際生産の深刻さは、次の点にある。

昨年は、国際反革命同盟体制における米帝の統率力の後退が印象づけられた年でもあった。国際反革命同盟体制を統率する米帝の力の背景の一つが核独占である訳だが、イラクと朝鮮民主主義人民共和国に対し「核開発」の断念を迫る脅迫行動の最中、インド・パキスタンが相繼いで核実験を実施し、核武装国

反革命同盟体制の機能不全化を促進しつつも、それが帝国主義世界大戦へと展開するのではなく、主として世界的規模での多国籍銀行・多国籍企業間の吸収合併と労働者への犠牲の転化という階級対立を拡大する方向にストレートに展開する時代に入っているということである。

の領域において過剰資本を大規模に吸收するような本質的に新しいと言える産業の勃興が見込めなくなっていることである。資本は、消費の資本主義的限界の前に戸惑いながら、労働手段の発達とともに大失業事態を深刻化して行かざるをえなくなっている。

うこと、社会の内に増大し始めたこの新たな欲求は、賃金奴隸制および利潤追求と本質的に重複せず、それらの否定へと向かわざるにないものだということである。

1・21 周辺事態法を廃案へ	
主催／同集会実行委員会	1月21日（木）午後6時 扇町公園
「紀元節・日の丸・君が代」と	2月11日（木）午後1時 京都会館会議場
たたかう2・11京都集会	主催／天皇制の強化を許さない京都実行委員会
事的屈服強要路線への移行過程 に入っている。米帝は、国際反 革命同盟体制における統率力を	朝鮮民主主義人民共和国の人工 衛星打ち上げを世界で一人ミサ イル実験と言い張り、米・韓に

その核心部分において亀裂が広がり、機能不全化の過程が始まっているのである。

による失業の増大、賃金引き下げ
年金制度改悪策動、消費税率の
アップ等によってますます収縮
している。輸出も、米国のバブ

わが国の支那陸續は、二つの難題に直面している。一つは、デフレ・スペイタル過程に突入した大不況からの脱出であり、もう一つは、米帝が準備し始めた朝鮮侵略戦争への参戦である。

大不況は、ますます深刻化する趨勢にある。政府は、銀行やゼネコンへ湯水のように税金の注入し、高額所得者の所得税と法人税の大幅引き下げをおこない、こうして景気回復を期待しているが、それによつては不良債権の重荷が少しばかり軽減され、遊休設備が少しばかり稼働するだけである。もはや新規設備投資が景気回復の牽引車となる時代ではない。政府が独占資本に厚い手当をしている時、国

壊後の再編期を終えて新時代の軍拡を開始しようとしている。そして対イラクに統いて、朝鮮民主主義人民共和国に対しても、懷柔取り込み路線から軍

代表の菅や公明党代表神崎が「朝鮮有事」に際しては参戦を支持するとの態度を表明したことなどに見て取ることができる。

ハ景気のかないトドケテ少の方向に向かう。大不況はつまり、国家財政赤字だけが急騰張していくことになる。社会がブルジョア国家と資本主義の下で存立できなくなる。労働者をはじめ人々が起ち上がる。少なぐともそうした行く末を垣間見せる、支配階級にとっての地獄のスパイクルが始まつたのである。

他方、支配階級において朝鮮侵略戦争への参戦問題は、いよいよ待つた無しの政治問題になつてゐるようである。米帝によると、朝鮮侵略戦争の迫り来る発動にわが国の支配階級が必死に備えようとしている様は、昨秋のクリントン・小渕会談に間に合わせる形で、その直前に小渕が国連軍・多国籍軍への参加をも求める小沢・自由党との連

1・21 周辺事態法を廃案へ
戦争協力をしない、させない関西集会
1月21日（木）午後6時 扇町公園
主催／同集会実行委員会

2・11 「紀元節・日の丸・君が代」と
たたかう2・11京都集会
2月11日（木）午後1時 京都会館会議場
主催／天皇制の強化を許さない京都実行委員会

ムがいかに破綻しようとも、それに置き換わる社会システムを構築できる労働者階級に用意がないならば、それは倒れはしない。時代は、わが国の労働者階級に戦闘陣形の構築を求めてい

われわれは、ブント結成以来四十年、赫旗派結成以来十八年の党建設を総決算し、全ての共産主義者と共にして、この時代の要求に正面切って応える決意である。

新 春 特別読物

20XX年1月の正夢

朝、望はいつもの時間に目覚めた。窓を開けると、普段は自動車の排気ガスと騒音が幹線道路から流れ込んで来るのに、今日の空気はやけに澄んで清々しい。「正月休みでもないのにおかしいな」と、覚めぬ頭の回転がゆっくりと動き出すや苦笑いが走った。そうだ、すでに革命後××年経つてたのだ、ブルジョア社会の残滓が未だ意識の中に巣くっていたのである。

二十世紀末から二十一世紀早くから地面上を埋め尽くした自動車文化はすでに一掃され、環境汚染は数百分の減らされた。排ガス規制も一桁増税、環境税の新設などで都市部の自動車数量は数十分の一に

早々にかけて地球上を埋め尽くした。その結果第二次ブントの成されたが、その第一次ブントも、更にまた一九六六年に再統合して結成された第二次ブントも、学生運動の高揚を牽引しながら、党建設に挫折している。ブントは、学生運動の小ブルジョア的憤激の自然発生性に拝跪し、急進民主主義と対決できなかっただけでなく、階級的政治の薄弱さを有していた。その結果第二次ブントの

新 春 特別読物

20XX年1月の正夢

れていた。地下水を汚染させ、山々のマツの木のみが広葉樹林にまで立ち枯れの影響を与えていた車の排気ガスは、肺ガンやアルギー性疾患などの最大の原因として革命直後から対策が施された。資本主義最大の産業として政府に甘い規制しか許さなかつた自動車産業界の力が喪失するや、その方策の実施は簡単であった。ガソリンや軽油の単価が下落した。ガソリンや軽油の増税、環境税の新設などで都市部の自動車数量は数十分の一に

早々にかけて地面上を埋め尽くした。その結果第二次ブントの成されたが、その第一次ブントも、更にまた一九六六年に再統合して結成された第二次ブントも、学生運動の高揚を牽引しながら、党建設に挫折している。ブントは、学生運動の小ブルジョア的憤激の自然発生性に拝跪し、急進民主主義と対決できなかっただけでなく、階級的政治の薄弱さを有していた。その結果第二次ブントの

ブントは、一九五八年マルクス・レーニン主義の諸原則の復権を目指して現代修正主義に転落した日本共产党から分派し結成されたが、その第一次ブントも、更にまた一九六六年に再統合して結成された第二次ブントも、学生運動の高揚を牽引しながら、党建設に挫折している。ブントは、学生運動の小ブルジョア的憤激の自然発生性に拝跪し、急進民主主義と対決できなかっただけでなく、階級的政治の薄弱さを有していた。その結果第二次ブントの

戦後の現代帝国主義を国際反革命体制論として、米帝と他の帝国主義の関係を巡る自立・従属性論争をその内に止揚する仕方で、国家論を克服してソ連・帝・官僚制を構築し

第一は、共産主義者の統合を推進する事業において、統合対象の無基準な拡大と恣意的な選別によって政治的にかけ離れた潮流をも含めて統合協議の枠組みを形成したこと、こうして形成された建党協定が、同盟の中心的メンバーを推進軸に、同盟の提起した綱領的対案を討論することを拒否する相互尊重も民主もない運営をおこなうという事態を招いたことであ

る。

第二は、綱領を実践の指針として戦術を巡る内部矛盾を適切に解決することを拒否する相互尊重も民主もない運営をおこなうという事態を招いたことであ

る。

われわれは、社会革命の中心目標を多かれ少なかれ生産手段の国有化に切り縮めてきたこれまでの綱領的限界を最後的に克服し、生産手段の私的所有の廃止と一体的に人々が分業に隸属せず、生存のための経済活動規定した。

われわれは、社会革命の中心目標を多かれ少なかれ生産手段の国有化に切り縮めてきたこれまでの綱領的限界を最後的に克服し、生産手段の私的所有の廃止と一体的に人々が分業に隸

労働運動論 — 独創編

芦田保徳

はじめに

今日、わが党の労働戦線に対する取り組み・戦術政策は、決定的に立ち遅れていると云わざるをえない。たしかに、現代情勢はソ連崩壊という「社会主義」の「敗北」「後退」以降、世界的にも歴史的にも革命運動・社会主義運動は劣勢、防衛を余儀なくされている。国内的にも、自民党一・党支配・経済的危機の進行が進みながら、一方では保守化・独占資本・ブルジョア主義が進められている。民主主義的・改良主義的野党一革新は解体され、反戦平和勢力・左翼勢力は少数派を余儀なくされている。労働戦線においては、帝國主義・独占資本を下から支えている。労使協調・右翼的労働潮流が、「連合」という中央組織を中心としており、それに対決している全労連(日本指導)も、「資本主義の枠内で改革」「保守との共同方針」の下、資本との融和・協議を主軸に、選挙活動に重心をおいた行動によって労働者階級のたたかいで歪曲解体させている。

大恐慌の始まりの情勢下、労働者階級・被掠取人民のたたかいでソ連崩壊から十年、戦後体制の再編なはしながらも全世界において、いは、さまざま限界変体をなしながらも全世界において、

日本において激動を開始を告げている。世界資本主義の総本山

アメリカ帝国主義の足元において、この間、チームスター運輸労働者の勝利的たたかい、全米での自動車労働者のたたかいなど、民主・共和両ブルジョア政党政権支配を食い破り第三党

一社会主義政党の形成を準備する、いまだ未知数ではあるが歴史的なたたかいが始まっている。

イギリスでの公務員を始めとして鉄道・港湾のたたかい、ドイツでの時短・反失業反戦のたたかい、フランスでの反失業、貨物上げのたたかい、そしてヨーロッパ全土での「ユーロ」体制下での労働者階級の戦闘的たたかいの牽引車の一翼を担つた。国労・官公労・中小企業、争議団、重工業独占体の中(日本)フランク提起し、八〇年代のたたかいの牽引車の一翼を担つた。新生たために(東京都委員会バ

戦の右翼的再編阻止戦術、そして八五年「階級的労働運動の

戦の左翼的再編阻止戦術、そ

して八五年「階級的労働運動の

戦の右翼的再編阻止戦術、そ

して八五年「階級的労

